

審議会等議事概要

平成29年度 第1回滝川市いじめ防止専門委員会 議事概要

日時	平成29年9月29日(金) 15:30~16:30
開催場所	滝川市役所 7階 701会議室
出席者	会長：富家直明委員 委員：豊田収委員 関係者：神原充史氏 事務局：山崎教育長、田中部長、栗井指導参事、諏佐課長、寺嶋課長補佐、堤主査
議事	<p>1 開会 進行：諏佐課長</p> <p>2 教育長挨拶 山崎教育長</p> <p>3 委員紹介 事務局より委員・関係者・事務局員の紹介</p> <p>(以後の進行は会長による)</p> <p>4 議題</p> <p>(1) 報告</p> <p>i 市及び市立学校におけるいじめの防止等に係る取組状況について</p> <p>ii いじめアンケート調査(1回目)の結果概要について</p> <p>i ii について、堤主査より報告</p> <p>質疑応答</p> <p>①委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケートで「今もいじめられている」と答える児童生徒数が、経年を見ても減少していない点が心配である。今年度6月のアンケートでは約80人の児童生徒が「今もいじめられている」と答えているが、その背景など詳細を分析して対策を個別に講じていくような計画、見通しがあれば聞かせていただきたい。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none">・いじめアンケート後の教育相談により背景を把握する取り組みは行っているところである。さらに今後は各学校において、前回「今もいじめられている」と答えた児童生徒の生活の様子などを短いスパンで追跡し、報告をいただくという方法も可能かと考えている。

②委員)

- ・アンケートで「今もいじめられている」と答えた児童生徒の人数と「いじめを見たり聞いたりしたことがある」と答えた児童生徒の人数に大幅な乖離があるのだが、この数値に関連性はあるのかを伺いたい。

事務局)

- ・「今もいじめられている」と答えた児童生徒数より「いじめを見たり聞いたりしたことがある」と答えた児童生徒数が圧倒的に高い数値となっていることについて、一つのいじめ事案に対して複数の子どもが回答したということが考えられるとともに、ある出来事に対して子どもたちが「これはいじめではないのか？」と察する気持ちを持っているということが表れた結果だと考えている。いじめを見聞きしたという児童生徒については聞き取りを行い状況を把握することを大前提としながらも、高い数値はいじめに対する子どもたちの意識の高まりを表すものと考えている。

③委員)

- ・数値の関連性については主観的もしくは客観的にいじめと感じたという共通項があるのを押さえた上で、その数値について、言い換えればいじめの感じ方について、これほどの差があるのはなぜか。

委員)

- ・学校でいじめとそうでないもの（からかいやふざけ）の違いはある程度教えているものなのか。

事務局)

- ・学校においてはこれはいじめ、これはいじめでないという指導ではなく、相手が嫌だ、つらいと思うことがいじめであるという形で指導がなされているものと考えている。

委員)

- ・今の委員のご指摘に関して、例えばパワハラやセクハラの場合、それらに該当するパターンを例示してポスターなどで周知してきたことがあったと思うが、この場においてのいじめでは、いじめという言葉が一人歩きして子どもたちが共通するイメージを持ち得ていないのではないかと、ちょっとしたふざけに対していじめと感ずる場合もあれば、深刻ないじめであっても自分に非があると訴えないということもあるのではないかとというのが私の思うところである。

委員)

- ・子どもたち個々人のいじめというものの受け取り方に大きな差があるように感じる。

(2) 協 議

- i 滝川市いじめ防止専門委員会の事業計画について
- ii いじめに関する通報・相談状況について
- iii いじめ認知状況について

i について、堤主査より説明

質疑応答等

特になし

ii、iii について、堤主査より説明

質疑応答等

①委員)

- ・ これからも注視すべき案件があるにせよ、その他については良好な関係を保っているということで、適切に処置がされていると感じた。

②委員)

- ・ 最近ではスマートフォンや携帯電話、LINE を使ったいじめが主流になりつつある中、それを舞台にしたいじめ事案がないのが意外であった。これについて何か理由はあるのか。

事務局)

- ・ 今回資料として提示した 4 月から 8 月までのいじめの通報相談及び認知の中で、SNS 等の情報通信端末を利用したいじめが偶然なかつただけのことであり、いつでも起こりうる状況にあると考えている。

委員)

- ・ 各学校で行われている情報モラル教育の成果の表れと捉えることができると思うが、その点についてはどうか。

事務局)

- ・ 情報モラル教育については、学校では外部指導者や道教委等からの資料をもとに子どもたちへの啓発を行うとともに、学級学年懇談会や PTA 総会等で保護者にも啓発を呼びかけているところである。また、滝川市教育委員会社会教育課でも昨年度、小学校 4 年生から中学校 3 年生までを対象に携帯電話やスマートフォンに関するアンケートを取り、その実態を踏まえて教材を作成し、出前授業をしたところである。そういった中で情報モラルに対する意識が高まっていると考えることもできるが、先日届いた全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙において、家庭における携帯電話やスマートフォンの利用の決まりを守っているかという項目について、滝川市では中学生は遵守の割合が高いが小学生はその割合が非常に低いという結果であったことから、小学生の情報モラル教育については考えていかなければならないと感じたところである。

③委員)

- ・ いじめ事案の一件について、クラスの子がおかしいと気付いて母親に報告する、加害児童が自ら被害児童に謝りに行くなど子どもたちの行動面もさることながら、教職員同士のフォローや学校と両者の家庭（保護者）との連携を非常に熱心に行った様子が見て取れる。ふだんからいじめを目撃したらどう

行動すればよいかを子どもたちに指導することや、保護者との連携や教職員同士の良好な関係性を保つ工夫など、平時の時にこそ各学校でこういった対策を進めていくことが大切であると感じた。

④委員)

- ・他の事案についても、解決までに苦労があったと思われるものも見受けられる。いじめに関する通報相談及び認知事案については個別の案件ということで終わらせることなく、全ての小中学校、高等学校に参考になるような形で教訓を拾い上げていただけたらと思う。

全体を通して

①委員)

- ・前回のアンケート結果と数値を比較して、各学校で取り組んできたいじめを許さない学校づくりの成果が表れていると感じた。

②委員)

- ・各学校の迅速、そして継続的な指導により事態が深刻になることなく収束していることに敬意を表したい。

5 次回の会議開催

予定日：平成30年2月上旬（予定）

6 その他

特になし

7 閉会

会議資料

会議次第